

## 論文の内容の要旨

論文題目：

Community Translation in a Multilingual Online Environment: Case Study and Theoretical Framework  
(オンライン多言語環境の中でのコミュニティ翻訳 ケーススタディと理論的枠組み)

氏名 サルツバーグ・クリストファー

ここ数年間、インターネットの普及は人々が世の中の情報を受け取る方法に大きな影響を与えてきた。中央集権的なマスメディアの従来型モデルは急速に変化し、特に新聞業界は近年大規模な縮小を余儀なくされている。ブログやウィキ (wiki) など、いわゆる参加型メディアの競争に直面した報道業界は、利益を維持するためにニュースの内容を地域やコミュニティ規模に移行しているという研究結果が出されている。その一方で、このローカルレベルへの転換が進むとともに、グローバルニュースの中で異文化理解を脅かす報道のギャップが広がっている。

そこで本研究は、ケーススタディ研究から生まれる理論的枠組みを通じて、「コミュニティ翻訳」という概念に基づいたネットメディアによるグローバルニュースの発信についての異なる視点を提示する。研究の第一対象として、「グローバル・ボイス・オンライン(Global Voices Online)」という市民メディアネットワークに注目する。グローバル・ボイス・オンラインは国境、言語、文化を越えて世界中から数百人のブロガー、ジャーナリスト、翻訳家が参加し、ネット上で交わされる会話を集約するメディアプロジェクトである。特に本研究は、英語から10ヶ国語以上で、ローカルブロガーの視点を世界中の言語コミュニティに伝える「プロジェクト・リングア」という翻訳プロジェクトに焦点を当てる。

本研究はケーススタディという方法論を採用している。グローバル・ボイスのメンバーとして、研究者が団体の中の議論に参加して、翻訳家と会って、それからアンケートやインタビューなどという調査を行った。ケーススタディ対象のプロジェクト・リングアと直接関連する資料以外にも、翻訳コミュニティのためのソフト開発者、また別の翻訳コミュニティとのインタビューも分析資料の一部として含まれる。

本研究ではさまざまな分野の研究を取り入れている。翻訳学(Translation Studies)という枠組みの中では、ここ数年間で今までほとんど研究されていなかった通信社内の翻訳、その過程や背景などについてさまざまな研究が行われてきた。通信社で翻訳された文章は、言語コミュニティに伝えられる際に大幅に組み替えられる、ということが分析の結果証明された。本研究は、グローバル・ボイスという団体内において、世界中の読者に向けて発信するために引用するブログエントリーを選択、文脈付け、整理をし、ニュースを集めるという過程を、通信社での内容を組み替える作業に関連付ける。一方で、プロジェクト・リングアのチームの翻訳方法は、音声・映像翻訳の分野で研究されているアニメの字幕翻訳を行うファン翻訳 (fan translation) コミュニティに類似しているようである。より広い意味で本研究は、「翻訳コミュニティ」を一つの実態として捉え、バーチャル・コミュニティの研究から生まれた類型を用いて、分類し特徴付ける。

本研究ではケーススタディの結果を用いて、メディアによる国際ニュースの報道と、グローバル・ボイスのコミュニティ翻訳による情報発信との違いを強調する。特に、従来のメディアの「ニュース翻訳者」（ローカル）と「海外特派員」（グローバル）との違いが、このケーススタディの場合ではリングアの翻訳者とグローバルボイスのオーサーの違いに相当する。国際通信社の場合は、この違いが作業の厳密な区分によって維持されるのに比べて、グローバル・ボイスの場合はこの作業の区別は厳密ではなく、役割が機能的に重複することもある。最後に、共通の関心を有するコミュニティを通じ、言語や文化の境界を越えた情報の伝達を表現する枠組みを提案して、翻訳の役割をより幅広く組み入れるよう具体的な推薦を提言する。